

発行：〒656-0011 兵庫県洲本市炬口1-3-19 東亜天文学会速報部

郵便振替口座：00980-8-189107 加入者名：東亜天文学会速報部 購読料1部130円

Published by the Department of Yamamoto Circular, Oriental Astronomical Association

Collaborating with the Computing and Minor Planet Sections

P. O. Box No.32, Sumoto, Hyogo-Ken, 656-8691 JAPAN

e-Mail address: (Subscription) URL: <http://www.oaa.gr.jp/~oaacs/yc.htm>

編集：中野 主一 ☎ 0799-22-3747 Fax: 23-1104 e-Mail address:

Editor: *Syuichi Nakano*, 3-19, Takenokuchi 1 Chome, Sumoto, Hyogo-Ken, 656-0011 JAPAN

マックノート新彗星 P/2008 J3 (McNaught)

マックノート (*R. H. McNaught*) は、サイディング・スプリングの50-cm ウプサラ・シュミットで2008年5月10日につる座を撮影した捜索フレーム上の次の位置に18等級の新彗星を発見した。発見当時、彗星には、集光した6"~8"のコマと西南西に30"~40"に広がった淡い扇形の尾が見られた。氏による5月11日と12日の観測では、西南西にそれぞれ45"と40"の尾が見られている。マウント・ジョンのギルモアら (*A. C. Gilmore & P. M. Kilmartin, Mt. John*) による1.0-m反射での5月11日と12日の観測では、西南西に細く伸びた25"の尾と約10"のコマがあつて、12日には恒星状の集光が見られた。ポリネシアのティーモ (*N. Teamo, Punaauia*) による41-cm反射での5月12日の観測では、西南西に伸びた15"の尾が観測された (IAUC 8942)。

2008 UT	α	(2000)	δ	Mag.
May 10.69282	21 ^h 45 ^m 44 ^s .98	-42°	44' 30".3	18.4

OAA 計算課では、2008年5月10日から5月25日までに行なわれた30個の観測から次の軌道を決定した。彗星は、周期が約7年半の新周期彗星であつた。しかし、周期は、まだ、動くだろう。

T = 2009 Mar. 10.869 TT				
$\omega = 4^{\circ}.634$	} (2000.0)	e = 0.41299		
$\Omega = 9.816$		a = 3.88806 AU		
i = 25.395		n° = 0.128560		
q = 2.28235 AU		P = 7.67 年		

マックノート新彗星 C/2008 J4 (McNaught)

マックノート (*R. H. McNaught*) は、サイディング・スプリングの50-cm ウプサラ・シュミットで2008 J3 の発見と同夜の2008年5月10日にみずがめ座を撮影した捜索フレーム上の次の位置に16等級の新彗星を発見した。発見当時、彗星には、西南西に伸びたコマがあつて、非常に拡散しており、同じ方向に20°~30°に広がった淡い5'の扇形の尾がカーブして北側に伸びていた。同所での5月11日の観測では、西南西に伸びた20"ほどの非常に拡散したコマが見られ、南に曲った2'.2の尾が見られた。さらに、12日の観測では、西南西に伸びた2'.0の尾とともに非常に拡散した楕円形の30"x40"の頭部があつた。ポリネシアのティーモ (*N. Teamo, Punaauia*) が撮影した5月12日の画像では、西南西に7'の尾が見られたが、翌13日には、集光が認められず、測定が困難であつたという (IAUC 8943)。

2008 UT	α	(2000)	δ	Mag.
May 10.79355	23 ^h 26 ^m 34 ^s .26	-07°	36' 56".3	16.5

OAA 計算課では、2008年5月10日から5月19日までに行なわれた16個の観測から次の軌道を決定した。下の位置予報のとおり、6月には、彗星は、明け方の低空を大きく動き、12等級で観測できる。しかし、拡散して観測できない可能性もあるだろう。

T = 2008 June 19.503 TT	} (2000.0)	$\omega = 93.449$		
		$\Omega = 289.236$		
		i = 87.622		
q = 0.44745 AU				

2008/ 27h JST	α	(2000)	δ	Δ	r	Daily motion	Elong.	Phase	m1	天文薄明開始時
	h m	°	' "	AU	AU	' "	°	°	等	h。 A。
May 29	01 23.09	+30	44.0	0.731	0.679	194.2/ 44	42.0	91.9	13.1	+19.1 245.3
30	01 33.72	+33	03.1	0.733	0.662	193.9/ 45	40.7	93.1	13.0	+18.9 242.4
31	01 45.00	+35	17.2	0.737	0.645	192.5/ 48	39.4	94.1	12.9	+18.7 239.5
June 1	01 56.93	+37	24.9	0.744	0.628	190.1/ 50	38.1	94.9	12.8	+18.3 236.6

2008/ 27h JST	α h m	(2000) δ ° ' "	Δ AU	r AU	Daily motion ° / ' "	Elong. °	Phase °	m1 等	天文薄明開始時 h. A.
June 2	02 09.49	+39 24.7	0.753	0.612	186.9/ 53	36.9	95.4	12.8	+17.8 233.8
3	02 22.66	+41 15.4	0.764	0.596	182.8/ 56	35.8	95.7	12.7	+17.2 231.1
4	02 36.38	+42 55.9	0.777	0.581	178.0/ 59	34.7	95.7	12.6	+16.5 228.6
5	02 50.57	+44 25.4	0.792	0.566	172.7/ 62	33.7	95.3	12.5	+15.7 226.2
6	03 05.13	+45 43.0	0.809	0.551	167.0/ 66	32.8	94.7	12.5	+14.9 223.9
7	03 19.94	+46 48.5	0.827	0.537	161.0/ 69	31.9	93.7	12.4	+14.0 221.8
8	03 34.87	+47 41.6	0.848	0.524	154.9/ 73	31.0	92.4	12.3	+13.0 219.9
9	03 49.77	+48 22.4	0.869	0.512	148.7/ 77	30.3	90.8	12.3	+12.0 218.1
10	04 04.48	+48 51.4	0.893	0.500	142.6/ 82	29.5	89.0	12.2	+11.0 216.5
11	04 18.86	+49 09.0	0.918	0.489	136.7/ 86	28.8	86.8	12.2	+9.9 215.0
12	04 32.80	+49 15.8	0.944	0.480	131.0/ 90	28.0	84.4	12.2	+8.8 213.8
13	04 46.17	+49 12.8	0.971	0.471	125.5/ 94	27.3	81.7	12.2	+7.7 212.6
14	04 58.90	+49 00.8	0.998	0.464	120.4/ 98	26.6	78.8	12.2	+6.6 211.7
15	05 10.92	+48 40.8	1.027	0.458	115.5/103	25.9	75.7	12.2	+5.5 210.9
16	05 22.21	+48 13.6	1.056	0.453	111.0/106	25.2	72.4	12.2	+4.4 210.2
17	05 32.75	+47 40.3	1.086	0.450	106.8/110	24.4	69.0	12.2	+3.2 209.6
18	05 42.55	+47 01.6	1.116	0.448	102.9/114	23.7	65.6	12.3	+2.1 209.2
19	05 51.62	+46 18.5	1.146	0.447	99.2/117	22.9	62.0	12.3	+1.1 208.9
20	06 00.01	+45 31.7	1.176	0.449	95.8/121	22.1	58.4	12.4	0.0 208.8

m1 = 15.5 + 5 log Δ + 10.0 log r ($\phi = +35^\circ.5$)

ガラッド新彗星 C/2008 J5 (Garradd)

ガラッド (*G. J. Garradd*) は、2008年5月13日に50-cm ウプサラ・シュミットでつる座を撮影した搜索フレーム上の次の位置に16等級の新彗星を発見した。発見当時、彗星には、40"のコマがあって、南西に広がった20"の尾が見られた。5月14日にブラジルのジャッキーら (*C. Jacques & E. Pimentel, Belo Horizonte*) が30-cm 反射でこの彗星を観測したところ、彗星には集光した30"のコマが見られた。ティーモ (*N. Teamo*) が5月14日に41-cm 反射で撮影した画像では、彗星には、集光した20"のコマと南西に20"の淡い尾が見られることを報告している (IAUC 8944)。

2008 UT	α (2000)	δ	Mag.
May 13.73380	22 ^h 28 ^m 50 ^s .70	-42° 14' 48".1	16.7

OAA 計算課では2008年5月13日から24日に行なわれた27個の観測から次の軌道を決定した。

$$\left. \begin{array}{l} T = 2008 \text{ Apr. } 6.257 \text{ TT} \\ q = 1.99114 \text{ AU} \end{array} \right\} \begin{array}{l} \omega = 316.006 \\ \Omega = 286.925 \\ i = 94.015 \end{array} \quad (2000.0)$$

ヒル新彗星 C/2008 J6 (Hill)

ヒル (*R. E. Hill*) は、カテリナ・スカイサーベイの68-cm シュミットで2008年5月14日にペガス座を撮影した搜索フレーム上の次の位置に15等級の彗星を発見した。発見当時、彗星には、恒星状の中央集光のある拡散したコマと南南西に1'の扇形の尾が見られた。ポリネシアのティーモ (*N. Teamo*) が5月14日に41-cm 反射で撮影した画像では、彗星には、明るい中央集光と拡散した45"のコマが見られている。発見同夜に守山の井狩康一氏 (*Y. Ikari, Moriyama*) による25-cm シュミット・カセグレインでの観測でも、15"のコマと西南西に短い扇形の尾が観測された。イタリアのギードら (*E. Guido & G. Sostero*) によるニューメキシコにある25-cm 反射を遠隔操作した5月15日の観測でも、彗星には、淡く25"に広がったコマに8"の中央集光があり、南西に30"の扇形の尾が見られることが報告された。同日に36-cm 反射で彗星を観測したアリゾナのマックガハ (*J. E. McGaha, Tucson*) も、14"のコマと西南西に48"の尾が見られることを報告している (IAUC 8945)。

2008 UT	α (2000)	δ	Mag.
May 14.46025	22 ^h 43 ^m 56 ^s .00	+10° 47' 48".4	15.5

OAA 計算課では、2008年5月14日から5月26日までに行なわれた54個の観測から次の軌道を決定した。軌道改良に使用した最終観測の一群は、守山の井狩氏によるもの。彗星の CCD 全光度は、上尾の門田健一氏 (*K. Kadota, Ageo*) が5月15日に15.3等、20日に15.7等、八束の安部裕史氏 (*H. Abe, Yatsuka*) が16日に16.1等と観測している。

$$\left. \begin{array}{l} T = 2008 \text{ Apr. } 11.217 \text{ TT} \\ q = 2.00486 \text{ AU} \end{array} \right\} \begin{array}{l} \omega = 10.843 \\ \Omega = 298.207 \\ i = 45.016 \end{array} \quad (2000.0)$$